



5

2017 Mdy

No.537

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

## 理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

### 基本方針

#### 患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

#### 患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に  
医療機能の充実を図ります

#### 完結型医療

地域の医療機関との連携を行い  
安心できる医療の展開を行います

#### 社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療  
ボランティアの活動を行います

#### 医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の  
育成を行います

## JCHO 版病院総合医 (Hospitalist) 育成プログラムの運用を開始します ～平成 29 年度 研修対象者の募集を開始～

### ■育成する医師像

地域医療の実践病院における病院総合医、医師不足地域で貢献する医師、又は総合診療が可能な開業医などとして地域医療を実践する能力をもった医師を育成します。

### ■プログラムの対象者

育成プログラムの対象となるのは、後期研修を修了した卒後 6 年目以降の医師です。従って、内科や総合診療科以外の科の専門医を取得している医師、開業して地域医療に従事することを旨とする医師の方々なども対象となります。

### ■プログラムの研修内容及び研修場所

育成プログラムでは、基本領域として、総合診療の実践に必要な知識（臨床推論、臨床疫学、保健医療マネジメント等）、内科を中心とした救急医療、循環・呼吸器管理（集中治療）、一般的な感染症管理、在宅医療、5 疾病をはじめとした複合疾患などを学び、その他の選択肢として、研修対象者のニーズに応じて小児科、産科、透析、精神疾患、過疎地域などの研修など専門的な研修を受けることができる体制を JCHO 全 57 病院のネットワークを活用して構築します。

JCHO には、急性期医療を提供する病院だけでなく、地域包括ケアの要となっている病院、老健施設・訪問看護ステーション等を併設する病院など多様な病院がありますので、2 年間（3 年間まで延長可）の中で研修病院・研修期間を組み合わせて個人のニーズに合ったカリキュラムを作成することが可能です。

また、プログラム修了時には認定証が発行され、その後も個人のニーズに合った魅力的なキャリアパスが用意されております。

### ■応募方法等

研修対象者は随時受け付けております（年度途中からも研修開始可能）。募集要項及び応募用紙は <http://www.jcho.go.jp/hospitalist/> よりダウンロードしていただけますので、下記宛先に郵送か、下記メールアドレスにメールでご送付ください。また、育成プログラムに興味を持たれている医師の方は、上記アドレスより詳細をご覧いただくか、下記お問い合わせ先まで直接ご連絡ください。



### <本件に関するお問い合わせ先>

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）

企画経営部 医療課（吉住、渡邊）

電話番号：03-3445-0862（直通）

メールアドレス：iryoka@jcho.go.jp

住所：〒108-8583 東京都港区高輪 3-22-12

医療の現場では専門医志向が強くなる一方、地域医療の場では、幅広い診療能力を有する病院総合医（Hospitalist）が求められるようになってきました。独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）は、地域医療、地域包括ケアの要として地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えることが使命であることから、他の団体に先駆け、平成 29 年度から地域医療に貢献する医師を育成するため「JCHO 版病院総合医（Hospitalist）育成プログラム」を開始しています。JCHO 全 57 病院のネットワークを活用し、医師個人のニーズに合ったカリキュラムを提供する JCHO 独自のプログラムで、対象者は、卒後 6 年目以降で、地域医療を実践し地域に貢献することを目指す医師です。内科や総合診療科以外の科の専門医を取得している医師、開業して地域医療に従事することを旨とする医師の方々も対象とし、基本領域として総合診療の実践に必要な知識、救急医療、循環・呼吸器管理、一般的な感染症管理、在宅医療、複合疾患などを学び、その他選択で小児科や産科、透析、精神疾患、過疎地域など研修を受けることができ、急性期医療以外にも地域包括ケアの要となっている病院、老健施設・訪問看護ステーション等併設する病院など多様な病院で個人のニーズに合ったカリキュラムを作成し研修を受けることができます。JCHO は、本プログラムの運用による病院総合医の育成を通じ、引き続き地域医療に貢献していきます。

人吉医療センターも本プログラムの総合診療重点病院です。内科救急、集中治療、感染症、在宅医療、5 疾患をはじめとした複合疾患、緩和ケア、終末期、フレイル、認知症、臨床疫学、臨床推論、保健医療、その他全般にわたり研修が可能です。人吉球磨で学びながら一緒に働きましょう。

JCHO 人吉医療センター 総合診療部長 田浦 尚宏



## 看護師の特定行為研修を行う研修機関として指定されました

看護師の特定行為研修を行う研修機関として、特定行為 10 区分において平成 29 年 3 月 29 日付で独立行政法人地域医療機能推進機構は厚生労働大臣が指定する研修機関に指定されました。

JCHO は、地域医療・地域包括ケアの要となる人材を育成し、地域住民の期待に応えることを使命としています。特定行為を提供する看護師を育成することにより、地域住民の多様なニーズに応え、安心して暮らすことができるよう地域医療を支え、貢献できることから、今般、特定行為に係る看護師の研修を実施することとしました。

JCHO においては、地域医療の場で、看護師が患者の状態に合わせたより迅速な対応ができることを重点的に強化するという主旨から、糖尿病看護、透析看護、感染看護、創傷ケア、在宅ケアの 5 領域に関連する特定行為区分について実施いたします。

### 実施する特定行為区分（10 区分）

- ・呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連
- ・ろう孔管理関連
- ・栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連
- ・創傷管理関連
- ・創部ドレーン管理関連
- ・透析管理関連
- ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ・感染に係る薬剤投与関連
- ・血糖コントロールに係る薬剤投与関連
- ・皮膚損傷に係る薬剤投与関連

JCHO 人吉医療センターでは、実施する特定行為区分（10 区分）の中で創傷ケアに関連した『創傷管理関連』『創部ドレーン管理関連』『栄養及び水分に係る薬剤投与』に対して実習機関として登録しております。団塊の世代が 75 歳以上になる 2025 年に向け、地域医療の現場で思考力、判断力並びに高度かつ専門的な知識とともに実践的な理解力を養うために特定行為研修が重要だと考えています。

そして、研修を受けた看護師が特定行為を標準化することで今後の在宅医療等を支えていくことを目指しています。



看護部長 入部 直子

JCHO 人吉医療センターでは、実施する特定行為区分（10 区分）の中で創傷ケアに関連した『創傷管理関連』『創部ドレーン管理関連』『栄養及び水分に係る薬剤投与』に対して実習機関として登録しております。団塊の世代が 75 歳以上になる 2025 年に向け、地域医療の現場で思考力、判断力並びに高度かつ専門的な知識とともに実践的な理解力を養うために特定行為研修が重要だと考えています。

そして、研修を受けた看護師が特定行為を標準化することで今後の在宅医療等を支えていくことを目指しています。

## 入職時オリエンテーション研修

4 月 3～10 日、入職時看護オリエンテーションが行われました。

入職時オリエンテーションでは社会人としてのマナーの基本、看護職としての基本技術の基礎を学びました。接遇マナーの研修では、まずは清潔感のある身だしなみ、挨拶、態度を学び、挨拶は自分から「届ける」事を必ずやっていこうと思いました。また、業務をしながらの言葉かけは相手に届かないことも学びました。看護職者にとって病院は職場であり日常生活の一部ですが、患者さんにとっては精神的・身体的にも一番弱っている時に来る場所であり、看護職者の何気ない言葉や態度が時には傷つけてしまう恐れがあると感じ、常に患者目線で傾聴し、寄り添う気持ちが大切であることを改めて学びました。

看護技術研修では採血・吸引・体位変換・輸液ポンプの操作方法などを学びました。採血・体位変換では患者側も体験しました。ベッドのギャッジアップ時の摩擦・ズレを体験し、ギャッジアップ・体位変換後の背抜き・除圧の重要性を再認識できました。実際に採血を受け不安や痛みを体感しましたが、患者さんには担当看護師が新人かベテランかは分からず、また、選



新人看護研修（筆者左下）

こともできないので、資格を持っている以上は 1 回で採血が終えることが出来るように準備・手順をしっかりと覚えなければいけないと感じました。

患者さんにとって看護師は病院内において一番身近な存在となります。誤薬や輸液間違いなどは即命に係わる危険性もあるため、常にダブルチェックを心がけ、少しでも解らない事や疑問に感じたことは先輩看護師に相談し、安全・安心な看護の提供をできるようにしていきたいと思います。「ここに入院して良かった。」と患者さんから言っていただけるよう、患者さんの気持ちを大切する看護師を目指します。

5 階病棟 看護師 宮原 直也

## 熊本県臓器移植院内コーディネーターの活動

臓器移植院内コーディネーターは、患者家族からの臓器提供の申し出や意志表示の存在を確認し、熊本県臓器移植コーディネーターへつなぐ役割を担っています。

当院は心停止後の角膜提供ができる施設であり、院内掲示や移植に関する配布物の設置、ホームページ等での周知活動や募金活動を行っています。

平成 28 年度は院内移植コーディネーターへの相談件数が 5 件、その中で 2 名の方より角膜提供があり、無事に 4 名の方へ角膜移植が行われました。熊本県内では昨年度 13 名の方より

献眼提供があり、20 名の方へ角膜移植が行われています。しかし現在も、角膜移植を待っておられる方は県内だけでも 140 名を超えています。

今後も、患者様やご家族の医師を尊重できるよう、院内職員へ向けた勉強会や角膜提供マニュアルの定着を目指し、積極的な周知活動を行っていききたいと思います。

臓器移植院内コーディネーター 看護師 平野 理恵  
社会福祉士 杉松 紗織



## H29 年度 JCHO 人吉医療センター 初期臨床研修医の紹介



こんにちは、研修医 1 年目の河野達哉と申します。4 月から人吉医療センターで 2 年間研修させていただきます。出身は宮崎で、人吉には来たことがありませんでしたが、居酒屋や居酒屋や居酒屋など仕事以外の時間も楽しめる場所が沢山あり、毎日充実しています。仕事の方は、慣れない自分にみなさん親切丁寧に指導いただき、

本当に感謝しています。

人吉に来て食べ物が美味しく早くも体重が 5kg 増加したので、そろそろ運動できる趣味を見つけようと思います。

少しでも早く貢献できるよう、勉強も頑張りますので、2 年間よろしくお願い致します。

臨床研修医 河野 達哉



研修医 1 年目の金光紘介と申します。4 月から人吉医療センターで 2 年間研修をさせていただきます。出身は熊本大学で、今まで熊本市を出たことがなかったのですが、人吉の生活と仕事に早く慣れて役に立てるよう頑張りたいです。

私は小学校の頃からサッカーをしていましたので、人吉で新たな趣味

なども見つけたいと思っています。

また、お酒が好きなので美味しい球磨焼酎もたくさん飲みたいと思います。

2 年間よろしくお願い致します。

臨床研修医 金光 紘介



こんにちは。木下聡と申します。平成 29 年の 4 月から人吉医療センターで 2 年間の初期研修医をさせていただきます。

私が熊本大学 6 年生の頃、病院実習の一環で人吉医療センターを訪れました。その時の実習は濃密で学習することも感動することも多いものでした。診察や手術の見学を了承して下さった患者さん、ドクターの先生方、看護師さん、スタッフの方々、

皆様が親切で優しく歓迎されているのを感じて嬉しかったです。その時に人吉で働きたいな、と感じました。

人吉、球磨地方の皆様とともに、健康な生活ができますよう、一生懸命頑張りたいと思います。まだまだ未熟者ですが、誠実に研修医を全うし、皆様から安心され信頼される医師になりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

臨床研修医 木下 聡



今年の 4 月から人吉医療センターで働かせて頂くことになりました佐藤慶治と申します。二年間ご迷惑をお掛けするとは思いますがどうぞよろしくお願い致します。少しでも皆さまのお役に立てるように一生懸命頑張ります。

人吉医療センターの職員の方々にはみなさん優しく声をかけていただけるので、大変楽しく研修させていただいております。また、指導もしっかりと丁寧に教えていただけるのでこの病院で研修することがで

きてとても良かったと感じています。

私の祖父母が人吉在住ですので、たびたび人吉には足を運んでいましたがなかなか街中に行くことはなかったので少しずつ観光もしていこうかなと考えています。

また、仕事の時間以外にもプライベートでも多くの人と交流することができたらと思っています。

みなさんどうぞよろしくお願い致します。

臨床研修医 佐藤 慶治



こんにちは。研修医 1 年目の白川真実と申します。2 年間、人吉医療センターで研修させていただきます。

私の実家は湯前町にあり、中学卒業までの 15 年間はずっと湯前町で育ちました。スタッフの方々にも知り合いの方がいらっしゃったり、色々と地元の話などで話しかけていただき、とても嬉しく思います。

これから 2 年間、人吉での生活が始まります。湯前から人吉に出て

きて、都会進出したと喜んでばかりいないで、しっかり勉強していきたいと思います。もちろん、仕事以外の時間もイベントや飲み会などでみなさんと楽しい時間を共有出来たらと思います。

まだまだ未熟で、たくさんのご迷惑をおかけすると思いますが、地元のために頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

臨床研修医 白川 真実



今年から、基幹型の初期研修医として人吉医療センターで研修させて頂くことになりました、的場祐二と申します。僕は、同期の優秀な研修医たちとは違って、マッチングという医学生向けの就活みたいなものに見事失敗してしまい、二次募集という形で人吉医療センターに拾って頂きました。危うくニートになってしまうところだったので、人吉医療センターには本当に感謝しており、二年間全力で貢献したい所存です。

人吉は熊本市内からすると田舎だというイメージがあり、そこの

暮らしに不安もありましたが、実際に住んでみると思った以上に住みやすい所で、この程よい静けさが根暗な僕には心地よく感じられます。

趣味は、音楽を聞くこと、ギターを弾くこと、体を鍛えることで、完全にインドア派です。研修が終わるまでには、筋肉だけで体重を 5kg くらい増やしたく思っております。

不束者ではございますが、二年間よろしくお願い致します。

臨床研修医 的場 祐二

## 人吉医療センターでの実習の感想



今回、消化器外科の学外実習として 5 日間人吉医療センターにて実習をさせていただきました。せっかくならまだ行ったことがないところで実習をしてみたいと思い、人吉医療センターでの実習を希望いたしました。

この 5 日間で直腸癌や結腸癌など消化器系の手術だけでなく、肺がんや乳癌など消化器外科以外の手術の見学もさせていただきました。また、病棟回診や救急外来の見学もさせていただきました。様々な症例を見ることができました。大学病院だと専門領域が細分化されていますが、市中の病院で幅広い疾患を診ることができ大変勉強になりました。実習中は、いくつか手技等もさせていただき、

なかには初めてする手技もあったので、とても貴重な体験となりました。

外科の先生方には本当によくしてもらい、将来自分もこんな医師になりたいという思いになりました。また、他の科の先生や研修医の先生、メディカルの方々も気さくに話しかけてくださり、大学病院との雰囲気の違いも感じました。

実習時間外では、ウナギなどをご馳走になったり、温泉に入らせていただいたり 5 日間という短い間でしたが、人吉を楽しむことができました。

最後になりましたが、今回の実習でお世話になった方々に、心よりお礼申し上げます。

熊本大学医学部医学科 6 年 藤本 優果

## 認知症対応力向上研修

5月8日認知症対応力向上研修会、17・19日認知症ケア加算のための研修会を当院で実施しました。

近年、認知症の患者さんへ対応する機会が増え、認知症の方の行動や心理状態、コミュニケーションの困難さにより現場スタッフの戸惑い、不安がみられており、認知症の患者さんが安心して医療及び適切なケアが受けられるよう体制の構築が必要です。

このような状況に対応するための研修として、この研修会を昨年度より当院の看護師を対象に実施しています。当研修会を通じて認知症に対する理解や基本的知識、具体的な対応方法などを習得することを目的としています。

今回は、計118名の参加があり、私と認知症対応推進看護師

(くまもとオレンジナース)の新村亜耶看護師が講師となり、講義を実施しました。

また、当院では、認知症ケアチームを中心に定期的なカンファレンスや病棟ラウンドを継続しています。患者さんの症状に合わせて内服調整や対応方法の変更などを行っています。他医療機関・施設へ移る際、認知症ケアの内容を盛り込んだ看護サマリーの提供など認知症ケアにおける地域連携にも力を入れています。

今年度は、この他にも認知症ケアの質向上に向けた研修会を企画中ですので、是非ご出席ください。



認知症看護認定看護師 山口 幸恵

## AEAJ アロマセラピストの資格を取得しました

AEAJ（日本アロマ環境協会）は内閣府に公認された、アロマセラピー関連で唯一の公益法人です。アロマセラピーをもっと医療の現場で生かしたいと思い、2年前から熊本市にあるALCアロマライセンスカレッジに通学しました。

これまで時間をかけて学習したことで、妊娠中や産後の方にも一人一人に合わせた精油を選択し、トリートメントで体に触れ、香りを楽しみ、利用方法を説明できるようになり本格的に実践できるようになりました。

昨年の熊本地震の後、分娩後の精神的不安が強くなり自宅にいても落ち着かないという産婦さんの外来受診が増加したことがあり、希望者へアロマトリートメントを実施しました。また、2017年2月まで60名ほどの方のお部屋訪問をおこないました。

退院までの期間は母親にとって様々な不安や感情の揺れがあり、トリートメントをきっかけにいろいろな気持ちが言葉であふれてきます。話を聴き、寄り添い、そこに香りがあれば自然に心が解放されます。

このような活動ができるのは、ご理解いただいた産婦人科の先生方、外来・病棟スタッフのおかげです。心から感謝いたします。

今後セラピストとして、地域や病院内でのアロマセラピーの普及を目標に活動を進めていきたいと思っています。



9階病棟 助産師 矢立 智春

## ふれあいの記 ～院内レクリエーションの記録～

院内レクリエーションが誕生して、今年で12年を迎えました。病人にとって最良のお薬は希望です。それを患者様に処方することによって、前向きに治療にも取り組んで下さるようにもあります。ささやかなことですがレクリエーションの中でも『希望という名の処方箋』を大切に育んでいきたいと思っています。

病気という人生の穴は、それまで見る事ができなかった多くのものを見せてくれます。たくさんの方がたの善意と好意がいつそう身にしみ入ります。そして苦しみは乗り越えるものではなく、寄り添い、労りながら仲良く付き合っていくものだったのだと思ったのです。

看護の皆様の熱意に、患者様は委ねることの大切さを

学び、感謝とともにご自分に責任を持つことを学んでご退院なさることでしょう。

昨年度に引き続き、平成28年4月から平成29年3月までの1年間のレクリエーションの記録【ふれあいの記】と、写真集【ふれあいの日】をそれぞれ1冊の本としてまとめました。

患者様にとってレクリエーションは心を癒す妙薬です。この居心地のいい『オアシス』で、今日という日を一番若い日として迎えることは、微笑む方も、微笑まれた方も心が豊かになります。



ボランティア 梶原 章子

## 「MIRAIs 電子カルテシステム更新キックオフ」

8月末の本稼働に向け、4月17日 MIRAIs 電子カルテシステム更新キックオフをおこないました。

電子カルテシステムの更新をおこなうことで、データ処理速度の向上などが見込めます。

本稼働までは、部門毎のワーキング、マスタ構築など取り組むことが多々あり、またシステムの導入時には、一時的に電子カルテの利用制限がでることもあるかと思いますが、患者さんと地域の先生方へご迷惑をおかけすることがないように取り組んでまいります。

## 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017くもと」 に参加しました

5月13日（土）から14日（日）にかけて熊本市の白川公園で開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017くもと」に参加してきました。

「リレー・フォー・ライフ」（RFL）とは、がん患者や家族、その支援者が24時間交代でタスキをつないで歩き、地域全体でがんに向き合い、絆を深め合うためのイベントです。がん制圧へ向けたチャリティ活動もあり、世界20か国以上、日本では全国49か所で開催されています。

熊本は今年で7回目の開催。熊本県や熊本市、検診機関、がんサロネットネットワーク熊本、各患者団体、医療機関、健康保険協会、私の所属するがん診療連携協議会相談支援・情報連携部会がん専門相談員ワーキンググループなどがチームを組んで参加し、がん啓発ブースを設置して相談に応じたり、リレーウォークやグッズ販売、ステージ演奏などの催しで交流を図ったりしました。がん患者・家族と緩和ケア担当医師など医療関係者で語り合う「あおぞらおしゃべり会」には、当院緩和・在宅医療センター長の西村卓祐医師とともに参加させていただきました。患者・家族からは「診察の時には医師に十分な話が聞けない」「他院への紹介は見捨てられ感がある」「複数の病院にかかっており、緩和ケア移行など今後の療養場所が不安」など率直な意見が聞かれ、それに対し医師や看護師、我々ががん専門相談員が「がん相談支援センターの活用」や「医療連携の在り方」「緩和ケア外来・病棟の利用方法」などお答えしました。患者・家族と医療関係者が理解し



合うきっかけとなる貴重な時間となりました。13日のステージには熊本県PRマスコットキャラクター「くまモン」も登場し、参加者全員で「くまモン体操」を踊るなど一体感を感じることができました。夕暮れには、県全域から集められたルミナリエが点灯されます。ルミナリエとは、みんなの思いを書いた紙の灯籠で、当院医事課の嶋原さんの娘さんが書いたものも飾られ、ウォーキングコースを温かく照らしていました。震災でがん診療も大きな影響を受けたこともあり、「熊本ががんばれ」というイラスト入りメッセージは、とても印象に残るものでした。

前日が大雨で開催も危ぶまれましたが、多くのサバイバーやケアギバー（家族・支援者）、一般の方々が参加されていました。参加者全員の元気と勇気が、がんに立ち向かう、または付き合っていく為の大きな力を生み出していくことを実感できる2日間となりました。来年こそは人吉医療センターからチームとして参加したいと考えています。

医療福祉連携室・がん相談支援センター  
がん専門相談員 南 秀明

## 連携施設探訪 「リバーサイド御薬園」 介護老人保健施設 Vol.5

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して地域包括ケアを推進していきたいと考えています。

そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。今回は「リバーサイド御薬園」さんです。

### 【施設の特徴】

「生きがいを求めて」

住み慣れたこの人吉・球磨の地での安心とやすらぎに満ちた生活を支援します。

リバーサイド御薬園は、医療や介護のみを目的とした施設ではなく、生活リハビリテーションを提供し、自立した生きがいのある生活が送れるよう支援する介護老人保健施設です。

私たちスタッフ一同は、自立のために何をしたらよいか考え、その実践に全力で取り組んでいきます。

### 【サービス内容】

施設サービス（入所）、居宅サービス（短期入所、通所リハビリテーション）、訪問看護ステーション（訪問看護・訪問リハビリ、ヘルパーステーション（訪問介護）、24時間サポートステーション（定期巡回型随時対応型訪問介護看護）、居宅介護支援事業所

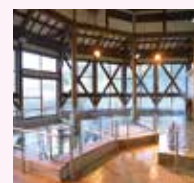
### 【地域の皆様に一言】

在宅医療や介護に関する悩みや疑問についてはいつでも何でもご相談下さい。

リバーサイド御薬園：0966-22-6811  
相談員 愛甲裕、林誠一郎



御薬園正面写真



温泉



エントランス



## お城まつりに参加

平成 29 年 4 月 29、30 日人吉市主催の「日本百名城 人吉お城まつり」が開催され、初日 19:00 ～行われた九日町通りでのパレードに当院も参加しました。



毎年参加しているこのパレードも昨年は熊本地震の影響で中止となりましたが、今年はがんばろう！の復興の意味も込め意気込んで参加しました。

少し肌寒い中ではありましたが、天候にも恵まれ、約 100 メートルの通りをオレンジハッピーを身に纏い、踊り歩きました。道中、沿道から声をかけていただいたり、風船を配ったりと周りの方々と身近にふれ合うことができたと思います。終わるころにはその熱気で身も心も温まりました。また、終盤には院長や研修医によるダンスバトルも行われ、大変な盛り上がりを見せました。

今後とも、住民の皆様とのふれ合いとおして顔の見える身近な存在になれるよう精進していきたいと思っています。

医療福祉連携室 金栗 由佳

## 新 任 紹 介



川人 章史（協力型・臨床研修医）

最終卒業校：大阪市立大学

趣味：早寝早起き

モットー：御恩と奉公

長所：声が大きくハキハキと話す、気が長い

短所：マイペースに動くことが多い

自分のコマーシャル：4ヶ月間、研修でお世話になります。愛して下さい。よろしくお願いします。



光浦 智証（協力型・臨床研修医）

最終卒業校：熊本大学

趣味：ドライブ、テニス、運動、山登り…現在模索中です

です

生活信条：悩んで決断したことには後悔しない

自分の性格：人見知りしないように頑張ります

自分のコマーシャル：早く人吉という環境になれるために積極的に診療に参加します。



木村 証希（医事課・医療クラーク）

最終卒業校：熊本学園大学

趣味：ソフトテニス

モットー：常に明るく、ポジティブ

自分の性格：負けず嫌いですぐに熱くなります

自分のコマーシャル：迷惑をおかけすることも多いと思いますが、精一杯努力しますのでよろしくお願いします。

## 職員旅行 in 宮崎



4月11、12日の2日間、宮崎への職員旅行に参加しました。

今回は13名、そのうち新人が2名と少なかったため、最初は楽しみより緊張のほうが大きかったです。

1日目は、綾町のワイナリーや照葉大吊り橋に行きました。ワイナリーでは何種類ものワインを試飲させていただき、初めて目にするワインも多くあり、貴重な時間となりました。また、吊り橋では他の観光客の方々も多く、橋の揺れが大きい中、ドキドキしながら橋を渡ったのも楽しい思い出となりました。その日の夜の宴会では、1人ずつ自己紹介をし、他の職種の方々とゆっくりお話しをすることができ、だんだんと緊張もほぐれていきました。

2日目は、サンメッセ日南、青島神社、最後に飫肥城へ行きました。この日は快晴の天気にも恵まれ、モアイ像や日南の海をバックにみんなで写真を撮ったりしました。最後の飫肥城では、九州の小京都「飫肥の城下町」を散策しながら、地元の美味しい食べ物や手作りの商品等を頂き、町歩きを楽しみました。この2日間で多くの体験をし、職員の方々と交流ができとても有意義な時間を過ごすことができました。

今回の旅行を通して、改めてコミュニケーションの大切さを学びました。これから、患者様一人一人に合った最良の医療を提供していけるよう、他職種の方々との連携を大切に、日々精進していきたいです。

栄養管理室 内田 紗椰

## 5月の勉強会報告

5月15日(月)第61回人吉・球磨最新医療研究会

「泌尿器専門医以外にも役立つ改訂前立腺癌診療ガイドラインのポイント」

熊本大学大学院生命科学研究部 泌尿器科学専門 教授 神波 大己先生

## 面会時間変更のお知らせ

患者さんの安静の確保、感染防止及びセキュリティ強化のため2017年6月1日より面会時間を下記のとおり変更いたします。

|       |             |
|-------|-------------|
| 平日    | 14:00～20:00 |
| 土・日・祝 |             |

※時間外の面会につきましてはご相談ください。